

6 Mainstream 領域：クラウド

ハイブリッド/マルチクラウドのデリバリー体制を強化し新規ビジネス創出にもチャレンジ

NTTデータ先端技術株式会社（以下、NTTデータ先端技術）にはAWS（Amazon Web Services）やOCI（Oracle Cloud Infrastructure）をはじめ、さまざまなクラウドプラットフォームに対応可能な高い技術力とノウハウを有するデリバリー体制がある。本稿ではその強みを活かした同社のクラウドビジネス戦略（図1）について紹介する。

AWS、OCI、Azure、GCPに対応するデリバリー体制の更なる強化

NTTデータ先端技術にはハイブリッド/マルチクラウドでのインテグレーションに対応する1,500名を超えるデリバリー体制がある。オンプレミスシステムに関するノウハウの蓄積もあるため、クラウドリフトを含めたさまざまなクラウドシステムのニーズに対応できる。

AWS、OCI、Microsoft Azure（以下 Azure）やGCP（Google Cloud Platform）を中心に量と質の両面からエンジニアの育成に力を入れ、

更なる体制の拡充を続けている。

「案件へのアサインはこれまで主にNTTデータの技術革新統括本部（以下、技統本）を通じて行ってきましたが、現在自営体制を強化していきます。また強みを増やすため技統本と連携し、設計リファレンスモデルやテンプレート、IaC（Infrastructure as Code）ツールなどの整備に取り組んでいます」（坂岩氏）。



NTTデータ先端技術株式会社
ソフトウェアソリューション事業本部
デジタルテクノロジー・インテグレーション事業部長
(兼務 基盤ソリューション事業本部 プロフェッショナルサービス事業部長)
(左から) 執行役員 坂岩 直樹氏
同事業部 副事業部長 小津 美夕紀氏
基盤ソリューション事業本部 プロフェッショナルサービス事業部
アドバンステクノロジー担当部長 山野 大佑氏

先進的な技術領域への対応を目的とする R&D 活動

さらに先を見据えた R&D 活動や PoC にも取り組んでいる。具体例としては xOps や Hyperautomation などの運用に関するもの、システムやデータ主権の観点から各国の法律や規制に則したクラウドサービスの提供を保証する Sovereign Cloud、また超高可用性クラウドなどがある。

単独での取り組みは非効率との考えから、規模や内容に応じてNTTデータの技統本や各事業部との連携も重視している。

ハイブリッドクラウド/マルチクラウドでのインテグレーション、デリバリー体制の強化
社会的関心の高いGreenを中心にクラウドを活用した新規ビジネス創出にもチャレンジ

	カテゴリ	取組内容
Delivery	タレントプール	・AWS、Azure、GCP、OCIを中心にエンジニアを育成、デリバリープールを組成 ・ハイブリッドクラウド/マルチクラウドでのインテグレーション、デリバリー体制の強化 ・PS事業部(600名)、DTI事業部(900名)のデリバリー体制の更なる拡充を目指す
	アセット開発	・デリバリーの武器となる設計リファレンスモデル、テンプレート、IaCツール類の整備 ・技統本クラウド技術部と連携して開発を行う。
Technology	R&D PoC	・xOps/Hyperautomation、Sovereign Cloud、超高可用性クラウド等のR&D、PoCへの参画。 ・技統本クラウド技術部、NTTD各事業部と連携して取り組む。
Solution	新規ビジネスの創出	・クラウド技術を利用した新規ビジネスの創出 ・Green ビジネス(エネルギー・リソース・アプリケーション・ビジネス) ・Azure OpenAI Serviceの環境構築サービス
	Microsoft	・Microsoft関連では、ニーズのあるMicrosoft 365デジタルワークプレックス導入・活用を中心にオンプレ、クラウドでのOA更改に対するソリューション創出、デリバリー体制を議論。
	Oracle	・Oracle Cloud(OCI)をコアとしたソリューション創出、デリバリー体制の強化を議論。

図1 クラウドビジネス戦略

国内トップのデリバリー体制を強みとする OCI 関連ソリューション創出・提供

NTT データ先端技術は 20 年以上にわたり Oracle 事業に取り組んでいる。「Oracle Cloud Infrastructure (OCI / PaaS) 認定資格」の取得者数は国内 1 位と国内トップのデリバリー体制を誇っており、2023 年 9 月には 3 年連続で Oracle Certification Award を取得した。オンプレミスシステムのノウハウも豊富であるため、難易度の高いクラウドシフト/リフトを含め幅広いニーズに対応する (図 2)。

「Oracle のデータベースプラットフォーム “Exadata” を利用するお客様が OCI を利用しクラウドへ移行するためのソリューション提供はもちろん、Exadata を導入していないお客様も OCI を選択しやすくなるソリューションを開発するなど、より OCI の受け皿を広げる活動にも注力しています」(山野氏)。

Microsoft 365 によるデジタルワークプレイスを中心に OA 更改ニーズに対応

NTT データ先端技術は Azure など Microsoft 関連ソリューション専門のデリバリー体制も有している。NTT データグループでは他に例がない。オンプレミスシステムで Active Directory を運用していたような OA 環境のクラウド移行も得意としており、幅広いニーズに対応可能だ。

Azure 基盤を活用したシステム提供のデリバリー体制強化を進めているほか、デジタルワークプレイス導

お客様に「5つの選択肢」をご提供。最適な選択肢を提案する「コンサルティングサービス」から、安定運用を支援する「マネージドサービス」までを一気通貫で提供することでお客様DX推進に貢献。

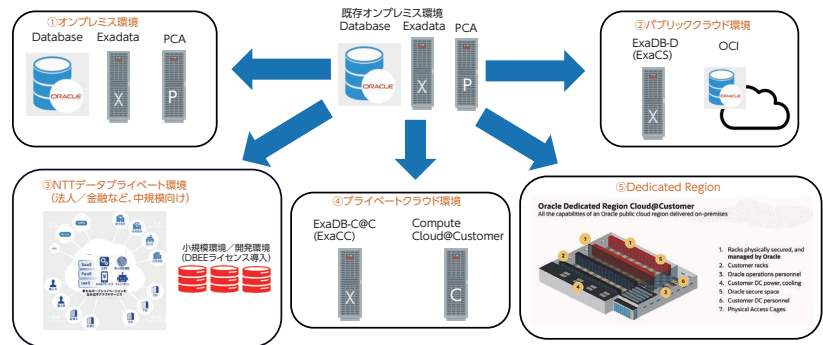


図 2 OCI 関連サービス

入ニーズの高まりを受け、Microsoft 365 関連のサービスメニュー化を進めている。

開発力を活かし新規ビジネス創出にチャレンジ

技術力が高く迅速なデリバリーが可能な体制を活かし、新規ビジネス創出にも取り組んでいる。例の 1 つが太陽光発電などの分散型エネルギー (以下、DER) 情報の収集・制御を目的とするプラットフォーム構築だ。

「2023 年 1 ~ 3 月に熊本県球磨郡球磨村、株式会社球磨村森電力と共同で実施した実証実験において、AWS マネージドサービスを活用し、DER 情報を収集する IoT システムを短期間で構築しました。村の施設などに設置された太陽光発電設備や蓄電池からの情報を収集して可視化できること、また蓄電池の充放電制御について有効性が確認されています」(小津氏)。

将来的には NTT データが構築する「グリーン分散エネルギー情報流通基盤」と接続することも視野に入れている。

もう 1 つの例が 2023 年 10 月 1 日に提供を開始した「Azure OpenAI

Service セキュア環境構築サービス」だ。注目の高まっている Open AI をニーズに応じて調整しながらセキュアに利用可能な Azure OpenAI Service の環境構築を代行する。PoCなどを目的に短期間で利用環境を必要とするお客様向けに PoC 用の環境提供サービスも用意されている。

コモディティ化が進むクラウド領域で身軽さを活かし新たな価値を提供していく

小津氏はクラウド領域において「ハイブリッド/マルチクラウド、複数技術の組み合わせへの対応が必須」と語る。その背景にはクラウド技術のコモディティ化があるとして、今後の取り組みについて坂岩氏は次のように述べている。

「まずはパートナー企業も含めたデリバリー体制の強化に力を入れています。今後クラウドのコモディティ化が進むのに伴い、技術の組み合わせと目利きが我々ならではの役割になると思っています。親会社である NTT データと比較すれば規模が小さく身軽であることを活かし、迅速に新しい価値を提供していきたいと考えています」。